大東文化大学　博士学位論文審査報告書

氏　　名	マハルザン　ラビ
学　　位	博士（英語学）
学位記番号	甲第１５２号
学位授与年月日	平成30年3月22日
審査研究科	外国語学研究科
論文題目	Identity in Three Novels of Henry James'
論文審査委員	（主査）大東文化大学教授　北林 光
	（副査）大東文化大学教授　大月 実
	（副査）大東文化大学教授　Ｃ．シュパング
	（副査）ニューヨーク市立大学准教授　Wayne Finke

博士論文　審査報告

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

２．論文の要旨およびその特色

ラビ氏は、論文の中で、ヘンリー・ジェイムズの自己反省と自己実現を扱い、そして様々な文化的背景から、人物の描写、様々な社会的環境の描写、小説中での明白な(或いは隠された)人物の複雑な配置が、彼の小説の主題である、と論じている。ジェイムズは「Identity」を、現代の学者が考えるような概念で使用していることを認識していなかったのかもしれないが、この概念は彼の著作において明白に現れている。概念の徹底的な分析のためには「Identity」や「Self」等を、伝統的な辞書の定義から、現代の学者によって与えられた「Identity」の説明に至るまで様々な視点から「Identity」の問題を探求すべきであり、氏は論文でそれを論じている。この研究の重要性は、ヘンリー・ジェイムズの小説における「Identity」の理解を、「Identity」の問題の現代的な研究と関連させて考察したという点にある。

３．論文の構成・内容

ラビ氏の博士学位論文「Identity in Three Novels of Henry James」は、アメリカに生まれ、イギリスに長年住んだヘンリー・ジェイムズ(Henry James, 1843-1916)の作品を対象としたものである。ヘンリー・ジェイムズの作品のテーマは、国際状況を扱ったものが多く、特にアメリカとヨーロッパの異文化対立のテーマがよく知られている。そして、この国際的テーマの中でアイデンティティーの問題は特に注目に値する。本論文では、アイデンティティーの問題が顕著に表れている小説、*The American (1877)*、*The Portrait of a Lady (1881)*、と *The Wings of the Dove (1902)* を特に取り上げ、これらの中にアイデンティティーがどのように反映されているかを考察している。具体的には、ジェイムズの作品に描かれているアメリカ人とヨーロッパ人の登場人物と、それぞれの文化・社会とアイデンティティーとの関係を論じている。また、ジェイムズによって描かれたその時代のアイデンティティーは現在のアイデンティティーの概念にどのような影響を与えているのかを、特に文化、国民性、民族性の視点から検証している。

本論文は第1～3までの各章と、結論の全4章から成る。第1章では「Identity」と「Self」という語に対する定義付けから始まり、それらの歴史的背景と文脈の概要を説明している。その定義を基にして研究課題や研究の目的と意義につき述べている。第2章ではヘンリー・ジェイムズと「Identity」の関係を、彼の小説中で「Identity」と「Self」という用語がどのように使われているか

を用いて考察している。第3章は、ヘンリー・ジェイムズの3つの小説、*The American (1877)*、*The Portrait of a Lady (1881)*、そして *The Wings of the Dove (1902)*についてそれぞれ「Identity」の問題をどのように扱っているかについて論じている。本論の最後に全体を纏めた結論がある。

論文中で論じられている一つ目の作品である *The American(1877)*では、ジェイムズは「Identity」の複雑な性質を示している。アメリカ人とヨーロッパ人の登場人物による「Identity」の表現は、社会的、文化的、生物学的な特徴、共通の価値観、個人的な歴史、欲求に基づいて登場人物が他人と複数の「Identity」を共有することを示している。しかし、*The American* では、差異と自己実現から「Identity」が明らかになことも示している。同様に、道徳的、心理的なものを含む個々の登場人物の葛藤は、個人的な生活と社会との間の闘いを示している。主人公のニューマンは、自分の社会像を反省しているだけではなく、個人と社会の相互作用を通じて自分の感覚が生まれることを証明している。

二つ目は、ジェイムズが1880年に発表した小説 *The Portrait of a Lady (1881)*にみられる自己反映についての分析である。この小説の主人公であるイザベルは、アメリカからヨーロッパへ渡り、異文化に触れ、自身の自由と社会的要求という二者択一に迫られる。イザベルは自分の考えや気持ちに戸惑う自己意識に重点を置いている。彼女の試みは、自分自身を見直して、現在と将来の「Identity」を理解できるように、自分自身を反映させることである。彼女の見解では、自己反映を通じて真の「Identity」を求めていることは明らかである。イザベルの社会における新しい役割は、自己の「Identity」が自分の環境の変化に応じて変化するため、安定していないということを示唆している。

三つ目の *The Wings of the Dove* (1902)では、社会関係や意識に関係する「Identity」が登場人物同士の係わりで議論されている。この小説では主人公であるミリーの「Identity」は彼女の内面の本質と社会的関係によって形作られていることが示されている。この小説は世界と個人との対立構造が、多くの場合不明瞭であるということを示して、人間関係の多くが「不確実性」を孕んでいると結論付けている。

ラビ氏の論文の結論では、人間の本性が予測不可能で不確実であると言う事実を示している。それは以下の分析によって明らかにしている。
The American の主人公、クリストファー・ニューマンは、ベルガルドに悪徳の証拠があるにもかかわらず、彼への復讐心を断念する。*The Portrait of a Lady* でのイザベル・アーチャーは、他の選択肢があるにも拘らず、彼女が嫌がる夫であるオズモンドと必ず対立することが分かっている場所であるローマに戻る。そして *The Wings of the Dove* の主人公ミリーは、自身が死ぬ前に恋人であるデンシャーにお金を渡すが、彼女は彼が他の女性と愛し合っていることを知っている。それぞれの主人公は何かを犠牲にし、物事を許す能力と前に進む能力によって、彼らは最早運命の犠牲者にはならない。主人公のそれぞれは、物語の最後に彼・彼女らが誰なのかを認識し、自己認識を達成する。
以上のことからマハルザン氏は、ヘンリー・ジェイムズは「Self」と「Identity」の中核は、親切心と道徳観念であるということを主人公を通じて表現している、と結論付ける。この分析は、ジェイムズが狭義の概念としての「Identity」と、広義の「Identity」を使用していることを示している。ジェイムズの小説におけるアイデンティティーの概念の分析は、ジェイムズが文化的差異、自己認識と実現、そして自己と社会との関係の問題を扱う概念に関する、現代的な理解を持っていることを示している。この論文中で特に注目を集めてきた「*The American* (1877)」、「*The Portrait of a Lady* (1881)」、そして「*The Wings of the Dove* (1902)」において、文化的な違い、自己反映、そして周囲の人々との関係は、人間の心と社会の詳細な見方を示している。

本論文の構成は以下の通りである。

Chapter I
1.Introduction 1-29

1.1 Framework of Study: Background and Historical Context 1-21

1.2 Research Question and Purpose of the Study 21-27

1.3 Significance of the Study 27-28
1.4 The Outline of the Study 29
Chapter II 30-76
2. Henry James and Identity: From Literary Usage to Human Relations 30
2.1 On the Usages of the Term 'Identity' and 'Self' 30-47
2.2 On the Theory of Nevel, James' view of America and Europe, and Identity 47-62
2.3 Personal Life, Human Relations, and Identity 62-76
Chapter III 77-133
3. Discussion and Analysis of Identity in The Novels 77
3.1 Difference and Identity in *The American* 77-93
3.2 Self-reflection and Identity in *The Portrait of a Lady* 93-121
3.3 Social relationship and Identity in *The Wings of the Dove* 121-133
Chapter IV 134-137
4. Conclusion 134-137
References 138-144

４．論文の審査内容および評価

□審査委員・副査の講評

■大月　実

マハルザン・ラビ氏の博士学位申請論文は、米国生まれで英国で活躍した作家ヘンリー・ジェイムズの作品に現れた「自己（自我）」、「自己認識」（アイデンティティー）および「自己認識の危機」（アイデンティティー・クライシス）の問題について考察したものである。概念の定義を検討したのちに、ヘンリー・ジェイムズの３つの作品との関連で特に「自己（自我）」、「自己認識」（アイデンティティー）の概念および関連する諸問題につき分析を施している。そして、ヘンリー・ジェイムズによるこれらの概念の把握が 19 世紀をはるかに超えて現代的であることを明らかにした点は大きな貢献であると考えられる。

■Christian Spang

マハルザン・ラビ氏の論文は、19 世紀半ばにアメリカで生まれ、後年の殆どをイギリスで暮らしたヘンリー・ジェイムズの作品における「Self」の概念と「Identity」の問題を取り扱っている。

「Identity」という語の様々な定義を示したのち、本論文はヘンリー・ジェイムズの人生と作品について、部分的には最近の研究に基づき、また部分的にはジェームズの自叙伝的な著作に基づき紹介している。ラビ氏はここで人間関係及び、アメリカとヨーロッパの文化の違いについて焦点を当てている。これに伴い、彼は「*The American* (1877)」、「*The Portrait of a Lady* (1881)」、そして「*The Wings of the Dove* (1902)」の、3 つの小説について分析している。

ラビ氏は、分析の中でテクストからの十分な事例を提示し、研究課題であるヘンリー・ジェイムズの小説におけるアイデンティティー・クライシスについて分析している。全体として、ここでは一世紀以上前に亡くなったジェイムズ自身が、期待されるよりも遥かに近代的であることが説明されている。私は、この論文は、第一次世界大戦に繋がる数十年前にアメリカとヨーロッパの間で引き裂かれた小説家の作品の巧みな分析であると考える。

■Wayne Finke

作家ヘンリー・ジェイムズに関する研究へのマハルザン・ラビ氏の功績は、19 世紀にアメリカに生まれイギリスで生活した小説家によって書かれた 3 つの作品に見られる「Self」と「Identity」という概念の独自な吟味を行なったことにある。ヘンリー・ジェイムズの作品と人生に関する導入部ののち、ラビ氏は選んだ小説に関する洞察に満ちた、説得力のある分析を読者に提供している。氏

は自身の観点を裏付けるための豊富な参考文献を提示している。また、氏の引用文献は最新のものである。私はこの論文が前世紀の代表的な一人のアメリカ作家の作品の分析に関する重要な力作であると確信するものである。

５．結論

以上の審査内容、評価に基づき、本論文を審査対象とする学位論文審査委員会は、全員一致をもって、本論文は博士（英語学）の学位を授与するに値するものと判断し、ここに報告する。

以　上